



# 諏訪台中だより

令和8年3月10日  
荒川区立諏訪台中学校  
令和7年度  
学校だより 第11号

## 【学校教育目標】

- ・豊かな心をもち、思いやりのある
- ・生徒自ら考え、進んで学ぶ生徒
- ・心身ともに健康でたくましい生徒
- ・地域とともに学び、地域を愛する生徒

## 「一人ひとりが輝く学校」

～生徒を主役にする主体的な学び～

校長 出井 玲子



## 『さまざまなこと おもひ出す 桜かな』 (松尾芭蕉)

松尾芭蕉が、かつて仕えていた屋敷の庭で、満開の桜を眺めながら過ぎ去った月日に思いを馳せた一句とされています。桜の儂さと美しさが過去の記憶を呼び起こす情感的な句です。この一年を振り返る生徒の姿、ことさら卒業を前にした3年生が、諏訪台で過ごした日々を思い感傷に浸る姿と重なり、掲載してしまいました。

本年度の学校だより、最終号となりました。ここまで、生徒たちが目標に向かって生き生きと活動ができましたのは、保護者の皆様、地域の皆様のお陰様でございます。改めて感謝申し上げます。

3月は、まとめと出発の時期です。3年生は、大切な進路選択を行い、1、2年生はこの一年間の学習のまとめや次のステップに向けての計画に力を入れているところです。この数日で、各学年校外学習を行い、見聞を広げると共に、仲間との思い出作りにも取り組みました。例えば、2年生の鎌倉での校外学習は、3年生の修学旅行につながる学びの場ですし、1年生の伝統文化鑑賞教室は、身近にありながら触れることが少ない文化の学びにつながります。生徒からは、「調べ学習だけでは分からない歴史や伝統が学べた。」「端末で検索したが道に迷ってしまった。」「友達とのよい思い出ができた。」(2年生)「お箏やお囃子など本物を見る機会は無いから勉強になった。」(1年生)などの声が上がりました。

また、3月9日(月)の生徒会朝礼では、各学年委員長や各委員会の委員長が、今学期の成果と課題、今後取り組みたいことを簡潔ながら具体的に述べました。短時間の発表にも準備を重ね自治能力を身に付け発揮する姿をフロア側の生徒がしっかり見つめ見守る姿も本校の真骨頂です。

「主体的な学びの実現」と言われて久しいですが、それは、子供たちに自ら考えて行動できる力を身に付けることが大切だと考えるからです。

本年度、本校では、生徒にとって自分ごとにできる学びとはどんなものか、『生徒を主役』にして、分かる授業、考える授業、自ら考えて行動できる力が身に付く授業とはどんなことか検討してきました。それらを各教科や各学級で、「話し合い活動」や「計画立案」、「〇〇に挑戦」などの学習や学校行事として取り組んで参りました。常に安全対策は備え、生徒それぞれに寄り添いながら、小さな失敗を重ねながら進めました。特に3年生は、皆でコツコツと積み重ねて諏訪台中を輝かせてくれていると感じます。決して、大きく取り上げられるようなことばかりではありませんが、一人ひとりの自信と得意なことになり、「一人ひとりが輝く学校」につながっていくと思います。

これからも諏訪台中学校の生徒たちを見守っていただければ幸いです。

